

発達保育実践政策学センター公開シンポジウム  
(2018年8月5日)

## 《指定討論》

### 幼児教育・保育の質向上に 向けた政策研究の課題

村上祐介

(東京大学大学院教育学研究科准教授)



2

### 幼児教育・保育の課題

- ◆ 質がともなわれないアクセスは効果が低い
  - ◆ 構造の質だけでは十分でない
  - ◆ プロセスの質が確保されないと、構造の質への投資に対する効果の保証はなし
- ◆ エビデンスに基づいた政策であるが、大規模になると失敗することがある
- ◆ 体系的な計画、継続的な改善が必要



### ECEC政策における エビデンスの課題

- ◆ ランダム化比較実験 (RCT)
  - ◆ エビデンスの「エースで4番」、ただし…
  - ◆ 実験の実施が難しいことが多い
  - ◆ 外的妥当性に疑問
    - ◆ アメリカのある州での効果は日本でも同じか？
- ◆ 一般均衡効果があるかは分からない
  - ◆ 多くは小規模な環境での結果
  - ◆ いわゆる「部分均衡」に過ぎない
  - ◆ 大規模でも同じ結果とは限らない



3

### 日本における課題

- ◆ 保育の質に関するデータが少ない
  - ◆ 特にプロセスの質のデータは少ない
  - ◆ 大規模なデータによる計量分析では、保育の質を不問にせざるを得ない
- ◆ 学際的な研究による保育の質研究
  - ◆ 保育学や (発達) 心理学による観察研究や事例研究は不可欠(国・地域などの文脈により保育の質の内実は一異なる→時間と場所を限定した「現場」の知識を探索・蓄積)
  - ◆ 同時に他の社会科学・人文学諸分野による分析も必要



4

